

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専修学校エルケア医療保育専門学校	平成5年3月1日	金城 孝忠	〒 900-0029 (住所) 沖縄県那覇市旭町114-5 (電話) 098-860-7445				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人KBC学園	平成6年3月14日	大城 圭永	〒 900-0025 (住所) 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こどもみらい総合科	平成25(2013)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	近畿大学九州短期大学との連携・指導により、保育・幼児教育の知識を専門的に学び、関連施設において幅広く活躍できる知識技能を備えた「子ども達の成長を支える人材」を育成すると共に、社会的常識と接遇マナー、豊かな人間性を備え明るく健康で建設的な意志を持った従事者を養成する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	保育士資格・幼稚園教諭2種免許 等 中退率9%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,082 単位時間 単位	932 単位時間 単位	1,668 単位時間 単位	482 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
90 人	67 人	0 人	0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)			14	人		
	■就職希望者数(D)			14	人		
	■就職者数(E)			12	人		
	■地元就職者数(F)			12	人		
	■就職率(E/D)			86	%		
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)			100	%		
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)			86	%		
	■進学者数			0	人		
	■その他						
	(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) はなかが保育園、第2かぐらこども園、こども発達支援センターのびっと 等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL			無			
当該学科のホームページURL	https://www.lcare.ac.jp/schoolife/information/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		3,082 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		450 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
	うち必修授業時数		3,082 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		450 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		30 単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数		0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位				
	うち必修授業時数		0 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人		
	計				2 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①学生の就業対象となる業界及び職種における専門性に関する動向を受け入れた教育課程を編成する。
- ②教育課程編成委員は、専門的知見を有する企業等から選任、依頼する。
- ③教育課程編成会議を年2回実施し委員から意見や提言を頂く。
- ④校内カリキュラム委員会において、企業等の意見や提言を検討し実践かつ専門的な知識・技能を修得させるための実効性のある教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①学校管理運営規程の(委員会等の設置)第3条に教育課程編成委員会の設置が位置付けられており、教育課程は、教育課程編成委員会に諮り、学科の目標に照らして校長が編成する。
- ②教育課程編成委員は、委員長(教務責任者)・学科責任者が参加することにより、企業等から提示された意見や提言を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
上原 健二	学校法人嘉数女子学園 沖縄女子短期大学 児童教育学科	令和4年4月1日～令和6年3月 31日(2年)	②
大浜 富士野	社会福祉法人KBC愛育会 めぐみの森保育園	令和4年4月1日～令和6年3月 31日(2年)	③
糸満 健次郎	社会福祉法人結い福祉会 結い保育園	令和4年4月1日～令和6年3月 31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月14日 16:30～17:30

第2回 令和5年2月16日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

主体性を養うため、ボランティア活動や課題学習など保育分野で興味があることを学び深めていくカリキュラムの推進。朝の会の絵本の読み聞かせなど新しい取り組みを行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育・幼児教育機関へ実務実習の受け入れを依頼し、専門分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する為、関連施設と連携して実習、実技の演習を行っていくものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等から授業科目や授業内容・方法についての助言や意見を基に、演習等で必要な技術修得を図る。また生徒の学修成果の評価についても連携を図り、実践力を軸とした評価を行う。

- ① 実習実施前に依頼先医療機関と担当職員が、実習の目的および内容、評価、実習生について事前説明会を行う。
- ② 実習期間中には依頼先への訪問、電話等での実習状況や学生指導についての要望などの意見を伺う。
- ③ 実習終了後、学修成果の評価にあたり実務の視点から意見を頂くため、生徒が修得した技能及び実践的かつ専門的な能力について評価を頂き、学生に対しフィードバックを行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習Ⅰ (保育)	保育現場で保育を経験することにより、学習してきた理論や技術どのように実践と繋がるのかを理解し、実践を通して保育の技術、能力を向上させる。	①社会福祉法人KBC愛育会 めぐみの森保育園 ②社会福祉法人わかめ福祉会 わかめこども園 ③宜野湾市立 宜野湾保育所
実務研究Ⅰ(施設インターンシップ)	・利用者との関りを通し、生活の様子や職員(保育士)の仕事内容を知る。 ・専門的かつ実践的な実践を通し「障がい」を「個性」として理解する人間力を育む。	社会福祉法人ニライカナイ こども発達支援センターのびっと
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 商業実務課程に即した教育活動を実践するため、企業と連携して実務に関する知識、技術、技能の修得及び教員個々の教育活動上の役割を考慮し、指導スキルの向上を目的として組織的かつ計画的な研修を行う。 ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招き、簿記・会計等に必要な実践的な知識・指導力向上研修 ②学園本部主催の研修・研究会にて指導力向上を目的とした自己啓発的研修 ③学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: アレルギー大学ベーシックプログラム	連携企業等: 沖縄アレルギーゆいまーの会	
期間: 令和4年11月23日 9時～17時	対象: こどもみらい総合科教員	
内容: 食物アレルギーに関する医学、食品学、職員表示、食育などの基本的な知識を学び、現場対応の概略を理解する。		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: コーチング研修	連携企業等: 財団法人職業教育・キャリア教育財団	
期間: 令和5年3月27日 9:00～17:00	対象: 教務職員	
内容: ティーチングとコーチングの相違を理解し主体的な学習を促進させる技術を習得する。		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 求められる保育者育成とは	連携企業等: 社会福祉法人わかめ福祉会	
期間: 令和5年11月14日 13時半～	対象: こどもみらい総合科教員	
内容: 保育業界の現状を踏まえ、保育者育成のポイントを現役の園長より学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: ID(インストラクショナルデザイン)研修	連携企業等: 財団法人職業教育・キャリア教育財団	
期間: 令和5年11月17日 8:30～17:00	対象: 教務職員	
内容: 受講者の特徴や教育環境・リソースの中で最も効果的で魅力的な授業方法を選択し実行・評価し改善する		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針 当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人財を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・育成する人財像が、「学生の手引き」に記載されているか ②教育理念・育成する人財像が、教職員手帳等に記載されているか ③教育理念・育成する人財像が、HP、パンフレット・募集要項等に記載されているか ④各学科の修業期間における教育事業計画が文書化され、提示されているか
(2)学校運営	①年度予算、中期計画が策定されているか ②予算は計画に従って妥当に執行されているか、定期的に確認しているか ③理事会・評議委員会が定期的開催されているか ④運営会議が定期的開催されているか ⑤人事考課制度は文書化されているか ⑥賃金制度は文書化されているか ⑦採用制度は文書化されているか ⑧勤務管理が適正にされているか
(3)教育活動	①教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか ②カリキュラム作成の為のカリキュラム作成委員会があるか ③カリキュラムを作成するに当たり、教育課程編成委員会を開催し業界関係者等の外部関係者の意見を取り入れているか ④シラバス或いは講義要項等が作成されているか ⑤シラバス或いは講義要項等が事前に学生に配布されているか ⑥学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか ⑦授業改善のための組織的取組が行われているか ⑧企業・施設等での職場実習があるか ⑨キャリア教育等を行っているか ⑩ビジネス教育を行っているか ⑪コミュニケーション能力の向上に向けた取組を行っているか ⑫教員の育成計画が策定されているか ⑬専門性や指導力等の向上のための外部研修・研究へ派遣しているか ⑭教員の資質の向上の為の、自己啓発への支援をしているか ⑮非常勤講師との定期的な情報共有の為のミーティング等を開催しているか。および非常勤講師からの報告書等が提出されているか
(4)学修成果	①就職に関する目標を設定したか ②就職に関する目標は教職員に共有されているか ③就職活動に関する記録がなされているか ④学生の就職結果に関して検証・報告がされたか ⑤資格・検定・コンペに関する目標を設定したか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧進級率の目標を設定しているか ⑨進級率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されたか ⑩退学結果に関して検証・報告がされたか
(5)学生支援	①担任による面談が定期的に行われているか ②担任は、適切に配置されているか ③学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口が整備されているか ④学生指導に関する教職員の相談に応じる体制があり、周知されているか ⑤学生の面談・相談記録があるか ⑥定期的に健康診断を行っているか ⑦奨学金制度等の経済的支援があるか ⑧保護者との計画的な相談会・面談を行っているか ⑨卒業生の会(同窓会等)はあるか ⑩卒業生への職業紹介をしているか ⑪卒業生の就業状況把握の為の取組みを行っているか

(6)教育環境	①組織図はあるか ②学校の年間スケジュールはあるか ③図書室・図書コーナー等があるか ④キャリアサポートを行う就職支援室・支援コーナー等があるか ⑤喫煙に関する規定が文書化・提示されているか ⑥環境エコ活動に関する規定が文書化・掲示されているか ⑦学内の整理・整頓・清掃に関する規定が文書化されているか。また定期的に管理、チェックがされているか ⑧学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか ⑨学校生活において保険に加入しているか ⑩教育施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ⑪防災・防犯対策に対して文書化・組織化されているか ⑫防災・防犯訓練・研修が定期的に実施されているか
(7)学生の受入れ募集	①学校案内等に目指す資格・検定・コンペが明示されているか ②資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか ③学校案内等に学費・教材費・選抜方法等が明示されているか ④パンフレット、HP等において就職実績を公表しているか ⑤入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか ⑥学校説明会等による情報提供を行っているか ⑦入学者に対し学習、学生生活の為のオリエンテーションは行われているか
(8)財務	①会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか ②私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか ③備品及び車両に関する管理規定が文書化・管理されているか ④物品購入等における複数業者からの確認がされているか

(9) 法令等の遵守	①個人情報保護規定が文書化されているか ②セクシャルハラスメントに関する規定が文書化されているか ③施設設備の保守・管理が定期的に行われているか ④防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか ⑤教職員の健康診断がされているか ⑥自己点検・評価の為に運用ルールが文書化されているか ⑦自己点検・評価の組織があるか ⑧自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑨自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。結果に基づき計画的に改善を実施しているか ⑩自己点検・評価報告書があるか。公表されているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を実施しているか ②教育資源を地域社会に提供しているか ③社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を奨励・支援しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和4年度評価委員会にて各委員よりあった教育実績、学生募集(業界動向)、退学における今後の課題について関係する職員と共有の上、改善に向けて行動に反映している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
石川 久	公益社団法人 日本医業経営コンサルタント協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
平良 さつき	株式会社葉正堂	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
大濱 富士野	めぐみの森保育園	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ、広報誌等の刊行物、その他())
 URL: <https://www.lcare.ac.jp/schoollife/information/>
 公表時期: 令和5年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等々の関係者が専修学校専門課程全般について理解を深めるとともに、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、専修学校専門課程の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し説明するなどの取り組みを行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の沿革 ②特色 ③校長挨拶 ④所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①募集定員 ②入学方法 ③カリキュラム ④目指す資格・検定 ⑤資格・検定
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育への取り組み ②就職支援への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	①キャリアカウンセラー ②サポート体制 ③学生の声
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費免除等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果、自己点検評価
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(募集要項))

URL: <https://www.lcare.ac.jp/schoollife/information/>
 公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和5年度 1年次																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			英会話Ⅰ	日常の会話を英語で楽しむことができるようになる為に、基礎的な事柄を練習問題を交えて学ぶ。	1通	32		○		△	○				○	
○			健康科学	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の持つ教育的意義について説明することができる。	1前	16		○			○				○	
○			情報処理入門Ⅰ	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて概観する。	1通	34		○	△		○		○			
○			日本国憲法	憲法が大切にしている原理・原則な何か、実現する為の政治の仕組みなどを体系的に学習する。	1前	30		○			○				○	
○			幼児の心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16		○			○				○	
○			教育原理	教育の本質・意義・機能に関する理論的知識を習得し現代社会における教育の諸課題について考察する力を身に付ける。	1通	30		○			○				○	
○			造形表現法(指導法)	造形の基礎となる平面(デッサン、色彩)立体(動くおもちゃ、粘土)の作品制作を通し幼児の造形活動への理解を深める。	1通	32			○		○				○	
○			児童文化	児童文化の歴史や現在の児童文化を取り巻く環境を学び、様々な児童文化財について、与え方や作り方を学習する。	1前	32		○	△		○		○			
○			社会福祉	現代における社会福祉の全体像を理解し、社会的に支援が必要な本人とその家族への具体的な支援の事例を通して社会福祉の全体像を理解する。	1前	30		○			○				○	
○			社会的養護Ⅰ	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設に入所児童の対する社会的養護の基本的なあり方を学ぶ。	1通	30		○			○				○	
○			幼児と言葉	言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠を与え、保育内容としての「言葉」を理解する。	1前	16		○			○				○	
○			幼児と人間関係	幼児期の発達の特性と幼児教育・保育についての基本的な考え方、保育内容の領域「人間関係」の意義、人間関係の構築に必要な内容を理論的に学習する。	1前	16		○			○		○			
○			幼児と環境	乳幼児期に自然や様々な物に触れ、体験を積み重ねることで生きる力の基礎になる。「環境と関わる力」の発達や保育方法を学ぶ。	1前	16		○	△		○		○			

○			教育課程総論	教育課程・保育計画の基本的な考え方、子どもの発達や遊び等の基礎的理解を通して教育課程、保育計画の編成や作成の方法を把握する。	1通	30			○			○			○	
○			生涯スポーツ	幼児期、青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し障害者や高齢者を対象とした運動スポーツ活動のレパトリーを増やす。	1後	15			○				○			○
○			幼児と音楽表現	子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎(発声法)を学び、保育の実際の中で工夫が出来るようになる事を目指す。	1後	16			○			○				○
○			教育心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を演習を通し学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16			○	△		○				○
○			人間関係 (指導法)	「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識技術を習得し、子どもの理解を深める。	1前	16			○	△		○				○
○			音楽表現 (指導法)	音楽表現の理論及びリズム理論の学習を中心に、各種分析法と表現法の理解を深め、実践演習(分析結果による演奏)を行う。	1後	16				○	△	○				○
○			環境 (指導法)	激変する社会環境で子ども達の生きる力を培うために、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1後	16			○	△		○				○
○			言葉 (指導法)	言語について基礎知識・技術を習得し、児童文化財に関する基礎知識の習得及び遊びを通して、表現力を育む保育活動を構想・実践する。	1前	16			○	△		○				○
○			劇遊び (指導法)	福祉・保育に関する知識・技能を活用し演技をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	1前	16				○	△	○				○
○			ピアノ演習Ⅰ	初心者から経験者まで個々に合った指導を実施し、両手で弾き歌いができるような実技指導を行う。	1通	145				○		○				○
○			パソコン演習Ⅰ	保育現場でもOA機器の活用がある為、タッチタイピングの習得と日本情報処理検定協会主催日本語ワープロ検定合格を目指す(任意受験)	1前	44				○		○				○
○			基礎実践Ⅰ	一般的なビジネスマナーの習得とコミュニケーションスキル向上、自己PRができることを目指す。	1通	30			△	○		○			○	
○			保育研究Ⅰ	絵本、紙芝居などの読み聞かせやエブロンシアターなどの製作・実演を通して保育技術の習得を目指す。	1通	120				○		○			○	
○			実習指導Ⅰ	実習事前学習として、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、保育実習準備を行う。	1通	16			○	△		○			○	
○			志学Ⅰ	周囲との協働を保ちつつ、使命感を持って行動できる”自立心”を育成し、与えられた人生に感謝しながら高い志をもって歩む力の必要性に気付く事を目的とする。	1前	20			○	△		○			○	
○			実務研究Ⅰ	保育園インターンシップ・障が者施設インターンシップ・他校コラボ授業や学習発表会の実施時間として設定する。	1通	38					○	△	○	○		○
○			総合学習Ⅰ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	1通	189			△	○		○			○	
合計 30科目					1年次 単位時間	1,089		時間								

○		子ども家庭福祉	子どもと家庭に関する幅広い内容を学習し、保育者として子どもの最善の利益をはかる為の基礎的な知識を習得する。	2 前	30		○	△		○			○	
○		保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想と歴史の変遷について基本的な内容を理解する。	2 前	30		○	△		○			○	
○		子ども家庭支援論	地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。	2 通	30		○			○			○	
○		幼児への特別な支援	特別支援を必要とする幼児(知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等)の心身発達と心理的特性及び学習課程を理解する。	2 前	16		○			○			○	
○		子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	2 通	30		○			○			○	
○		子どもの食と栄養	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する。	2 通	36		○		△	△	○		○	
○		教育相談	子どもの心の成長やつまずき、保護者への支援に関しての理解を臨床心理学的視点から深め、子どもや家庭への支援の基礎を学ぶ。	2 前	30		○			○			○	
○		教職概論	教職・保育職の意義や役割、職務内容の基本的理解を通して、保育者には何が求められるのか自分なりの見識を有することを目標としている。	2 通	30		○			○			○	
○		教育方法論	乳幼児期の教育(保育所・幼稚園・認定こども園)現場における教育の方法の基本原則を知識として習得し、遊びを中心とした実践へとつなげていく。	2 前	30		○			○			○	
○		健康(指導法)	子どもにとって望ましい遊びと、家庭・園・地域社会での生活の過ごし方を見直し、優れた理論を実践化していく。	2 後	16		○				○		○	
○		教育実習事前指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	2 後	8		○	△		○			○	
○		音楽表現技術	「幼児と音楽表現」を基に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得し、弾き歌いのレパートリーを増やす。	2 後	16			○		○			○	
○		幼児と造形表現	豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的教育指導の習得を目指す。	2 前	16		△	○		○			○	
○		幼児と健康	保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解し、運動あそびの指導に必要な保育技術を学ぶ。	2 後	16				○		○		○	
○		障害児保育	子どもの心身の発達及び脳の発達について理解を深め、子どもの知的・情緒的・身体的障がいについての理解を深めていく。	2 前	16		○			○			○	
○		子育て支援	子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助課程各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につける。	2 後	16		○	△		○			○	
○		社会的養護Ⅱ	障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。	2 後	16		○	△		○			○	
○		保育実習事前指導Ⅰ(保育所)	保育実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2 前	8			○		○			○	

○			保育実習事前指導Ⅰ(施設)	施設実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2後	8		○			○			○	
○			保育実習Ⅰ(保育)	保育現場で保育を経験することにより、学習してきた理論や技術が実践と具体的にどのように繋がるのか理解し、実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。	2前	80				○		○		○	○
○			ピアノ演習Ⅱ	教本「バイエル」より楽譜が読めるようになり、弾きこなす。声楽の実技により弾き歌いができるように実技指導を行う。	2通	130			○		○			○	
○			パソコン演習Ⅱ	表計算ソフト「Excel」を学び、サーティファイExcel表計算処理検定合格を目指す。	2後	30		△	○		○		○		
○			基礎実践Ⅱ	保育者として求められるマナーや立ち居振る舞いの他に実習生としての基本的なビジネススキルやビジネス文書・冠婚葬祭について学習する。	2前	20		△	○		○		○		
○			保育研究Ⅱ	子どもを楽しませる技術を習得し実践する(パネルシアター作成・実演、手遊び、絵本の読み聞かせ、自己紹介グッズ)	2通	78			○		○		○		
○			実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	2通	109		△	○		○		○		
○			実務研究Ⅱ	本実習前に実践を通じて、保育の技術、能力を向上させ、2歳児未満の発達や関りを知る	2前	12				○		○		○	○
○			総合学習Ⅱ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	2通	187		△	○		○		○		
合計 27科目				2年次 単位時間		1,044		時間							
○			乳児保育Ⅰ	テキストや保育所保育指針、その他の参考資料を用いて、3歳未満の発達過程やその保育の意義を理解し、援助の方法を学ぶ。	3通	30		○	△		○			○	
○			乳児保育Ⅱ	講義やDVDを通して、乳児保育の必要性や他との連携など基本的な知識を学び、乳児保育Ⅰで学んだ内容を振り返る。	3前	16		○	△		○			○	
○			保育・教職実践演習	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育者に求められる資質能力の習得を確認する。発表・議論・ロールプレイ、模擬保育等を組み合わせ行う。	3後	32		△	○		○			○	
○			子どもの保健	子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題や発達段階各期の特徴を述べることができる。	3通	30		○	△		○			○	
○			保育の心理学	人格形成の基礎を築く乳幼児期の子どもに関わる保育者が「生涯発達」の視点で乳幼児期の発達を理解し、乳幼児の精神発達とその教育について考える。	3通	30		○			○		○		
○			子どもの健康と安全	子どもの健康は心身の健全な発達・発達が基本となることから保育者は専門的な知識と技術が求められる。子どもの健康と生命を守る為の実践力を身に付けることを目標とする。	3後	16		△		○	○			○	
○			保育実習事前指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3前	8		○	△		○			○	
○			保育内容総論	①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。②保育の総合性を踏まえ、指導計画の立案・実施することができる。	3後	16		○	△		○			○	
○			保育実習Ⅰ(施設)	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設での実践と助言指導を通し、社会的養護に関する専門的な理解と知識・技術を学ぶ。	3前	80				○		○		○	○

○		保育実習Ⅱ (保育)	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を修得し、子育て支援能力、福祉ニーズの理解力・判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成をめざす。	3 前	80				○		○		○	○
○		教育実習Ⅰ	幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、実習を通して理解し、部分実習または、全日実習の指導計画を立案する	3 前	80				○		○		○	○
○		教育実習Ⅱ	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら部分実習、全日実習の作成および指導、保育技能等を習得する。	3 前	80				○		○		○	○
○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3 前	38		△	○		○		○		
○		施設実習指導	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設の概要を知り社会的養護に関する理解を深め、各自の実習先に特化した事前学習と実習準備を行う。	3 前	22		△	○		○		○		
○		教育実習指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	3 前	30		△	○		○		○		
○		ピアノ演習Ⅲ	実習や就職を見通し具体的な目標を持って子どもの歌の歌唱、伴奏、弾き歌いの技術を高め実践力を養う。	3 通	50				○		○			○
○		パソコン演習Ⅲ	就職を見通しパワーポイント操作や保育園だよりなどの文書作成の技術を高める。	3 後	10				○		○		○	
○		志学Ⅱ	やりがいを持てる社会人生活を送る為に社会との繋がりの中で自分自身の生きる姿勢を探究し、各ロールモデルの中から自身の「志」を具体化させていく事を目指す。	3 前	16			○	△		○		○	
○		親学	「親としての学び」「教育者としての親」について学習する事で、自身のこれまでの成長に「感謝」と共に礼儀や日本人としての矜持・誇りについて学ぶ事を目的とする。	3 後	16			○			○		○	
○		保育研究Ⅲ	前期は実習で使用する自己紹介グッズや責任実習の使用物製作を行い、後期は保育発表会に向け製作や実技練習を行う。	3 通	50				○		○		○	
○		総合学習Ⅲ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	3 通	153		△	○			○		○	
○		保育発表会	3年間学んできた福祉・保育に関する知識・技能を活用しその集大成としての演劇をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	3 後	66				○	△	○	△	○	△
合計 22科目			3年次 単位時間	949		時間								

合計 79 科目	単位時間	3,082	時間	
----------	------	-------	----	--

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
【履修評価】 1. 評価は原則として科目ごとにその前期・後期終了時で其々の評価をする。 2. 評価は、平日の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、期末試験等によって行い、原則として絶対評価とする。 【学業成績】 学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優、良、可評価をもって履修とする。 優:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が著しく優秀な者 良:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が良好な者 可:科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況がやや劣る者 不可:科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく劣る者 【卒業】 本校に在学し、全ての科目において「可」以上の成績を修め、各学科設定の基準検定等取得し、かつ総授業時間数の90%以上の履修を得た者に、卒業証書を授与する。	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。